



附属小のマスコット・キャラクターが決まりました！平和で一人一人が輝く学校という願いが込められています！

令和5年度 附属小学校だより

# スマイル<sup>3</sup>ふぞく



第4号 令和5年7月14日（金） 校長 古野 祐一

## 1学期前期の御協力に感謝！

北斗の学び舎が大きく発展し、一人一人が活躍できるようにと、「飛躍」というテーマを掲げスタートした今年。6年生が、「自分の学校は自分たちで創る」という心構えで、頼れるリーダーとして様々に躍動してくれました。それぞれの学年・学級でも、一人一人が自分の取り柄を発揮して活躍できる場を見つけたり、友達が活躍するために自分にできることを見付けてサポートしたりする姿がありました。学年・学級目標に向かって努力する子どもたちによって、北斗の学び舎に、大小様々な感動を数多くもたらしてくれたことを嬉しく思います。保護者の皆様からの後押しがあったおかげです。

努力が必要な部分もあります。バス乗車に課題がありますので、毎朝、バス乗車マナーの向上確認を継続してきました。子供たちの意識も高まり、少しずつ改善されつつあります。今後も継続してマナーUPに取り組んでまいりますので、御家庭での声掛けも引き続きお願いいたします。

夏休みは、自分次第で様々な感動を味わえる季節です。家族で、忘れられないひと夏をお過ごしください。

### 【脳科学者 茂木 健一郎氏 「脳が変わる生き方」より一部引用】

自分の脳の働きを変える一番いい方法は、「感動する」ということです。感動することほど、人を変えることはありません。

今までの人生を振り返ってみてください。何に感動したかで、おそらく、その人の人生は決まっていると、私は思います。それぐらい感動というのは、根深い。

感動できるという能力、つまり自分が楽器だとすると、その楽器をどれくらい大きく鳴らせるか。人と会って大切な話をしているとき、あるいは、何か心動かされる物事と向き合っているとき、人生の大事な局面に佇んでいるとき、自分という楽器をどのくらい大きな音で鳴らせるか。そのことで、人間の器は決まるのです。

## 環境が整っています！

今週は、待ちに待った解禁日が二つありました。一つは1年生広場の芝生化。1年生が裸足で遊べる空間になり大喜びで走り回っていました。もう一つが、北斗の丘のブランコです。新しい遊具が、北斗の丘の思い出を増やしてくれると楽しみにしています。今の中学1・2年生が取り組んできた北斗の丘再生プロジェクト。受け継がれ、育友会の皆様の御協力のおかげで、安心安全な素敵な場所に生まれ変わっています。

北斗の子を育む環境整備は、まだまだ続いていきます！



10月の小体会に向けた6年生の選手選考。



バスマナー向上を目指し、乗車ルールの確認。



1年生中庭が芝生広場に変身しました。



北斗の丘にブランコが設置されました。

※裏面に続きます！

# 北斗の感動

生成 AI と教育が話題になっています。技術革新が教育の世界を大きく変えようとしている中、附属小学校にもその波が押し寄せていると感じています。本年度も長崎大学や企業と連携し、以下のような取組みが始まっています。

## メタバース空間での他校との交流

昨年度から、福島県川内村の子どもの交流を行っています。8月9日に本校で平和交流学習会を実施します。その事前授業として、メタバース空間で自分のアバターを使っての交流会を実施しました。顔が見えないことで、臆することなく交流できるメリットがあるようです。

## 位置情報技術を使っての避難訓練

長崎大学と地図サービスの提供を行っている株式会社ゼンリンと共同で、位置情報の教育的利活用研究を行っています。今年度は、予告なし避難訓練における子どもの行動傾向を分析し、安全教育に活かしていく予定です。客観的なデータを活用し、より豊かな教育を目指していきます。

こうした学びのように大学の附属機関として、先進的な教育研究を進めていくことは本校の使命であります。

## 二つの学び

先日、体育館を覗いてみると、5年生が跳び箱の授業を行っていました。数人の子どもが開脚跳びの習得のために練習を行っています。私も担任時代に開脚跳びの技術指導には苦労しました。頭で分かっているのに、身体が動かない。子どもの意識が「怖さ」にあるので、どうしても勢いよく跳べないのです。様々な教具を使ったり、パソコンで動画を見合ったりしていますが、子どもの意識はなかなか変わりません。

そこで、担任の先生は、子どもたちにこう語り掛けていました。「絶対に跳ばせてあげる」

何が課題かを見極め、子どもがイメージしやすい言葉を投げ掛けます。子どもの試技の後には、すかさずフィードバックの言葉。そして、「あと10cm」「もう98%までできている」と子どもをその気にさせる言葉を投げ掛けています。その結果2人の子どもが新たに技を習得できました。すかさず、全員を呼び、2人の試技と成長を共有することで学級の暖かい雰囲気をつくっていました。

その学級と子どもたちだけでしか創ることができない学びを進めていくことも、また本校の使命であります。  
教頭 橋田 晶拓

## 未来で輝く北斗の子

### 「知ること」より「使うこと」

子どもの頃、自家用車で家族旅行に出掛けました。県外の全く見知らぬ土地へ向かうのですが、親がまるで通り慣れた道であるかのようにハンドルを切る姿に大変驚いた記憶があります。思わず私は聞きました。「ねえ、ここ、通ったことあるの?」「いや、ないよ。」しかし数時間後には何の迷いもなく目的地に到着するのです。なぜうちの親は道順を知っているのだろうか?まさか特殊能力でもあるのだろうか??スマホもカーナビもない時代、少年だった私は不思議で仕方ありませんでした。

やがて私も運転するようになり、ようやくそのからくりが明らかになりました。答えは、青色の道路案内表示でした。大したことない答えでしたが、今では私も、見知らぬ土地を進むことができます。

決して誰かから〇〇行きの道順を習うわけではありません。ただ、地名という知識と、案内表示を見るところという方法さえ知っていれば、それらを活用することで「ここに行きたい!」が叶うのです。

このように、知識を活用することが豊かな生き方につながる場面は、実生活の中にいくつもあります。そして今や、無限にある知識は割と簡単に手に入る時代です。「知っているかどうか」より「使えるかどうか」。豊かに生きていくのに必要な力をつける夏休みとなりますよう願っています。

主幹教諭 才木 崇史

## 教えから学びへ

### 自由研究

『走れメロス』は走っていなかった」…これは、一般財団法人 理数教育研究所主催の「算数・数学の自由研究コンクール」での数年前の受賞作品テーマです。描写を頼りに平均移動速度を求めメロスの足取りを検証するという研究は、ニュース等でも取り上げられ、話題になりました。本コンクールにおいては、本校の子どもも、これまで次のようなテーマで研究をしています。

- 一筆書きはどんな形だとできるの?
- 8月のカレンダーで1~100までを探そう!
- ヘンゼルとグレーテルのおかしな家はいくらでできるの?

こうした自由研究は、自ら課題を発見し、解決していく力を育みます。さらに、身に付けた学び方や知識等を課題解決や探究に活用することは、学びの意義を見いだすこととなります。自由研究によって、子どもの「好き」「楽しい」がますます伸びる夏になることを楽しみにしております。

教務主任 松尾 勇哉